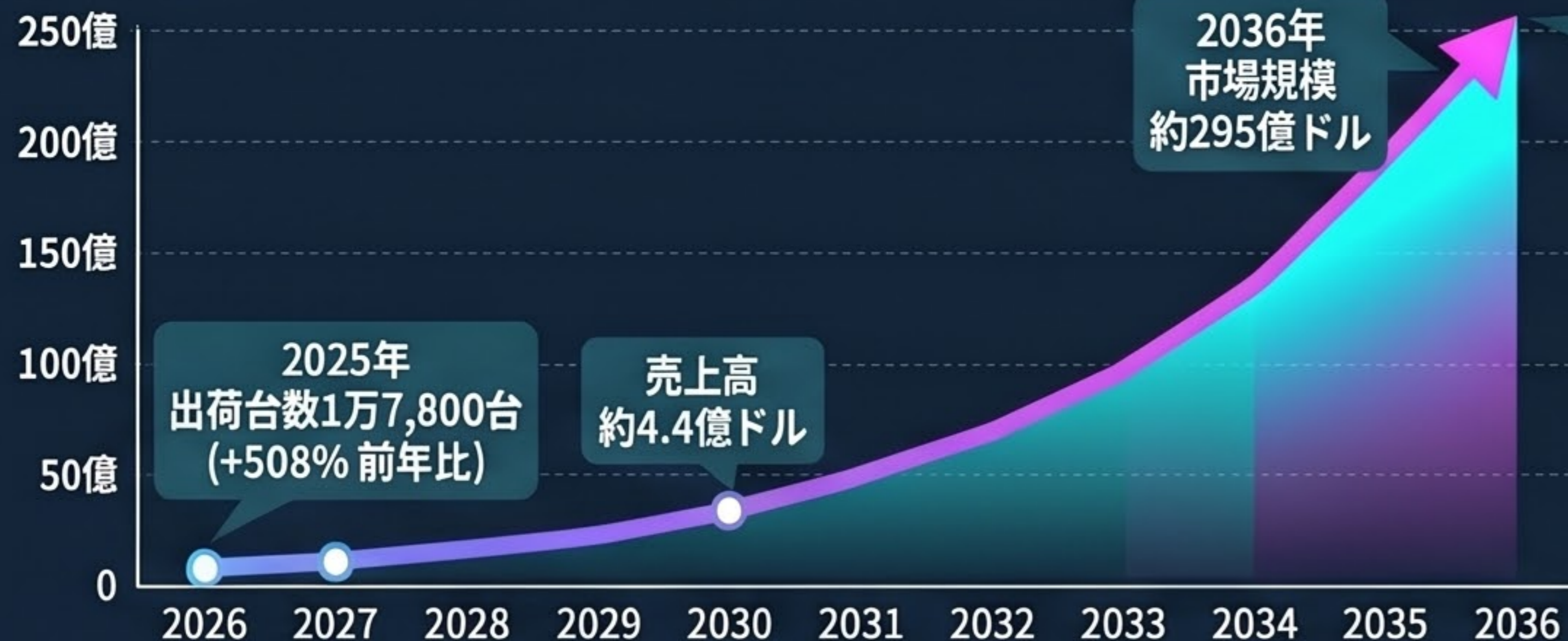


人型ロボット（ヒューマノイド）産業の現在地と未来展望：量産化フェーズにおける覇権争い

2025年の市場爆発、米中日の戦略対立、知財・標準化を巡る競争を解剖する

ヒューマノイド市場規模と出荷台数：爆発的成長軌道（2026年～2036年）

市場規模（億USD）



主要メーカーの市場階層（2025年推定）

Tier 1
(壘産主導)

Agibot, Unitree (中国)
4,200~5,100台

圧倒的コスト競争力と
国内需要で壘産牽引

Tier 2
(中堅)

UBTECH, Leju, Galbot 等 (中国)
400~1,000台

特定ニッチ攻略
(産業, サービス, エンタメ)

Tier 3
(実証殺機)

Tesla, Figure AI, Aptronik (米国)
数十~150台

高度なPoCIに特化
(自社工場, 自動車メーカー)

中国：量産と
コストの絶対優位

部品材料費（BOM）の比較

\$131K

約3分の1に
圧縮

\$46K

純中国製
サプライチェーン

中国製サプライチェーン
(フル活用)

圧倒的な製造コスト優位性。
国内需要とサプライチェーンをフル活用。

米国：ソフトウェアと
物理AI（Physical AI）

メカトロニクス
(Hardware中心)

Embedded AI
(Physical APP心)

Sim2Real
(仮想から現実へ)

仮想空間での数千万回試行錯誤
→ ニューラルネットワーク転送

Vision-Language-Action
(VLA) モデル：
ロボットの脳
(自然言語指示 → 関節制御コマンド)

高品質な実世界データ収集とAIモデル継続改善。
ソフトウェアプラットフォームの募古化進行中。

日本：精密部品の濠
(Moat) と特定領域

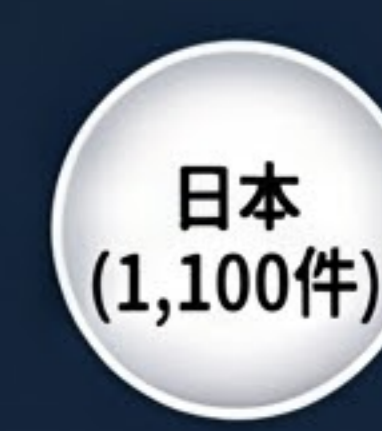


コンポーネントの濠 (Moat)：
減速機・モーター等基幹部品で高シェア



社会課題時化：少子高齢化社会ニーズ
(介護・災害対策など)

知財と国際標準化の覇権争い
(The Next Battlefield)



後進のハードウェア討御
(メカニズム)

AI融合領域
(強化学習, 生成AI, HRI)

標準必須規格 (SBP)
(次世代インフラ電機)

ISO/TC 299で安全基準（速度・分離監視など）の
SEP化によるライセンス収益モデルへ移行